

第4回若葉区地域福祉計画推進協議会会議録

日 時：平成23年 2月26日（土）
午前10時00分から12時15分
場 所：若葉保健福祉センター3階 大会議室
委員定数：33名、出席委員数：26名
事務局：9名、傍聴人：0名

【1】次第

- 1 開会
- 2 保健福祉センター所長挨拶
- 3 議題（1） パブリックコメントの結果について
（2） 平成22年度若葉区地域福祉計画推進協議会のまとめについて
（3） その他
- 4 閉会

【2】議事の概要

- （1） パブリックコメントの結果について
市地域福祉課からパブリックコメントの結果について報告をした。
- （2） 平成22年度若葉区地域福祉計画推進協議会のまとめについて
今年度の区推進協を振り返り、参加の全委員からの意見発表の後、同じく全委員の承認を得て来年度推進協への提言をまとめた。
- （3） その他
参加委員から次期区地域福祉計画案についての最終承認を得た。

【3】発言要旨

【議題1 パブリックコメントの結果について】

- （委員長）本日が第1期地域福祉計画の最後になる。推進協の役割はますます重要になってくる。次の地域福祉計画の中に皆さんの意見を活かしていきたい。
- （事務局）パブリックコメントの意見総数が25件あった。内訳としては計画全体が10件、個別具体的なものが8件、若葉区計画については2件、緑区計画については5件であった。パブリックコメントの内容を現在調整している。市の考えをまとめて地域福祉計画に反映するかどうかが市事務局で案を作り、来月の社会福祉審議会での審議を経て地域福祉計画を確定し、その結果をホームページで報告したい。
- （委員長）インターネットで公表するのか。
- （事務局）千葉市のホームページでパブリックコメントの結果を公表する。
- （委員長）3月16日の社会福祉審議会には私も出席する。後日でも結構なのでご意見がほしい。

【議題2 平成22年度若葉区地域福祉計画推進協議会のまとめについて】

- （委員長）さて皆さんの地域福祉計画や推進協についての意見を1人2～3分で発表して欲しい。
- （有賀委員）一番最初から推進協には関わってきた。皆さんの意見を聞いて帰るにすぎない状態が続いたこともあった。何故参加しているのか疑問に思うこともあった。自分の周りでもどのように福祉を進めていっていいか未だに模索中である。
- （池野委員）家族会の活動をしているときに高橋所長から指名されて参加した。「自助」とはいい言葉だと思う。何でも「公助」ではいけないと思った。家族会の会長職を後輩に譲り、フォーラムから関わってきた。この会議ほど、熱心に討議されてき

たものはないと思う。委員長、副委員長には厚くお礼を申し上げたい。地元で民生委員と「ふれあいサロン」を開催した。「家族のつどい」も発足した。「共助」ができた。具体的に1歩を進められたのはこの会議のお陰だと思う。若葉の地域福祉計画が具体的に進むことを祈念している。

- (尾出委員) 高齢者の問題が多く語られてきた印象が強い。障害者施設は自立支援法に基づき重い障害者が利用している。地域で暮らしている重い障害者もいらっしゃる。ゴミ出し等で困っているときに地域で支えてもらいたいと思っている。地域福祉計画の推進で、障害者が地域で生活しやすくなってほしいと思う。
- (大島委員) 4年前から参加している。ここで聞いたことを地域で活かしていければと思う。
- (奥田委員) 8年くらい関わっている。いろいろな事例を聞いてきた。自治会、地区部会でできることを考えてきた。地区部会で障害者委員会に携わったときに、地域に障害者がいることを知ってもらいたく活動してきて、次期地域福祉計画にも盛り込んでいただいた。昨年、地域で元気に暮らせることが大事と考え、高齢者のリズム体操を2回実施、いきいきサロンも新たに開催した。地域の子供と大人との交流会は8年目を迎えることができた。ありがとうございます。
- (香取委員) 昨年から参加している。どのように活動を進めていいのかわからない。今後ともよろしくお願ひしたい。
- (金子委員) 次期計画素案3ページに、地域福祉計画の円滑な実施を図るために推進協を設置すると書いてある。この推進協の役割を考えている。答えは出てきているが、推進協が大変な役割を次年度以降も担い、計画が進行することを願っている。
- (委員長) 金子委員には運営企画委員会でも意見をいただき、とても参考になった。これからもその意見を活かしていきたい。
- (雲村委員) 計画作成時点から関わったが、役にたったのか疑問である。情報をもらえるかと思ひ参加した。現場で反映できたこともあり感謝している。地域福祉計画の発展を祈念している。
- (小出委員) 参加して2年目になる。桜木地区部会の副部長をしている。桜木地区部会の高齢者では体力増強のための年に1回のグラウンドゴルフ大会や、高齢者の食事会をしている。大変好評である。独居高齢者が増えてきているので安否確認がクローズアップされている。民生委員だけでは大変である。自治会や新聞配達等の方たちと手を繋ぎ安否確認の仕組みを考えている。先日雨戸が開かなくて郵便物が溜まっている方がいた。安心して住めるまちづくりを真剣に討議しました。
- (委員長) 高齢者の見守りも色々な考え方がある。インターネットで情報を集めた。各地域の特色が出てきている。高齢者の助けあひの好事例を若葉区からも発信していきたい。
- (小出委員) 私の地区では黄色や赤い旗を決められた場所に設置する見守りのやり方も案として出ている。
- (鈴木委員) 大宮は千葉市で最も高齢化が進んでいる地域になった。見守りをやることについては最初自治会から話が出た。隣近所では見守れなくなってきた。そこで新聞配達や牛乳配達や電気、ガスを検針する方達と連絡協議会を立ち上げた。そして業者からの情報が入るようになった。見守りにつながったわけだが、その情報をどう活かしていくかが大事である。自治会がその情報に対応できるように20名のボランティアが常時対応している。個人情報の関係も問題になってきている。個人と自治会の間の問題なので、外には出さない申し合わせでやりとりしている。個人情報の問題がもっと大きくなると困る。各地域で適したやり方を考えて実践してもらえればよいと思う。
- (委員長) 大変貴重なお話をありがとうございます。
- (田沼委員) 私はフォーラムから関わっている。推進協は何だろうと考えた。未だに結論は出ていない。ここでの議論は高齢者福祉の問題が多くなってきていると思う。地域では他にも子育て問題や障害者の問題、引きこもりの問題がある。これら

を解決するのが、行政だけではなく地域だと思う。高齢者福祉や障害者福祉はそれらの行政の部署で進んでいると思う。しかし地域内では横につながっていないとできない。それはどこが推進するのか。行政内でも各福祉部署をつなげられるのが地域福祉計画を推進している部署だと思うが、それが見えなくてもどかしい。地域で誰もがいきいきできるまちになってほしいと感じている。推進協の役割を次年度に果たせればと思う。

- (委員長) 情報のPRのうまいやり方を考えていきたい。いろいろな問題がありすぎて時間が間に合わなかった。高齢者以外の問題にもすべて地域が関わってきている。次の計画ではもうちょっと時間を掛けるべきだと思う。
- (寺牛委員) ここでは「気づき」をいただいた。「あんしんケアセンター」で働いている。高齢者を相手にすることが多いが、若葉区もニーズが多様化していると思う。「あんしんケアセンター」を生活圏域でもっと増やしてほしいと思う。高齢者の問題で関わっても発達障害で悩んでいる50代や統合失調症の娘を持つ方と接することがある。総合的な家族の問題として深く関わることになる。したがって色々な組織と手を携えて解決していかないといけない。地域福祉計画の中で「気づき」を多く頂いた。
- (委員長) 次期推進協では「あんしんケアセンター」の対応例を聞いてみたい。
- (中村委員) 自治会が活発に動いているところは地域が活性化している。独居高齢者をどう見守るかが問題である。NHKでやっていたが、自治会で地図を描いて高齢者を把握していた。自治会でフォローしていかないとならないと思う。災害時でも自治会に協力していく必要はある。無縁社会という言葉が出てきているが、若い人の自殺も問題になっている。近所で把握できていればよいと思う。少しでも自治会を盛り上げることが大事であると思う。
- (野澤委員) 1年前から出席している。骨子が固まっていると感じている。計画案は素晴らしい。しかし実践していくときに問題点が2点ある。1つは、計画が地域で知られているか。各自治会長が知っているか不安である。PRすることが必要である。もう一つは、いかに実践していくかである。個々を見ると結構いろいろやっている。そこで組織作りやシステム作りが重要になってくる。自治会や社協、民生委員、民間の方々とは協力し計画を推進していきたい。
- (野村委員) 私も1年目である。実行するにはどうすればいいかが頭にある。社協と自治会の連携をいかにすすめるかである。組織を変えて、社協組織の中に自治会役員を入れるのも手法である。情報の共有が進むとよいと思う。
- (花島委員) 次期地域福祉計画は実践例が多く入っているので、地域福祉活動が根付いていると思う。無縁社会が流行語になっている。地縁、血縁が希薄化している。したがって頼るのは隣近所や同じ地域だと思う。地域福祉計画は「幸せのまちづくり」をキーワードにしている。暮らしに直結している。地域福祉計画は横の繋がりをとっていくものだと思う。点を線に、そして面にしていくための活動を地域福祉計画がサポートしていくことが必要だと思う。情報発信やノウハウの発信、協力の発信や情報交換の場としてさらに小さい単位でも進められれば色々なアイデアが出てくると思う。地域福祉計画がまわり始めた実感でできた。これをどう方向付けしていくのが推進協の役割だと思う。
- (藤森委員) 地域の皆ができることから始める。基本は向こう三軒両隣の挨拶から進めている。元気な高齢者を活用してほしいとお話してきた。私の地域でも友愛の助けあいを始めた。1つの事例を話したい。先週16日の3時過ぎに老人会長から連絡があった。14日の朝から会員のご主人が行方不明になっていた。皆で打ち合わせをして自治会から50名、老人会から60名、東警察から25名、四街道警察から15名の捜索体制が組まれた。私達は朝のウォーキングをしているので、100枚の顔写真を印刷し、コンビニ等に張り、また薬剤師から薬の情報をもらった。お昼に見つかったが残念ながら亡くなって見つかった。地域の皆で見つけることが出来た。できることから皆が始めていければいいと思う。

(10分間休憩)

- (古内委員) 3年前から参加している。アンケートを全世帯に実施したことがあったがそれがきっかけで参加している。絵に描いた餅はいくらあっても悲しい。実践者がポイントである。民生委員と自治会と地区部会が多い。自治会の参加者は数名しかいない。実践をどう進めていくかである。
高齢者は健康が一番大事である。病院にいかない体作りが大事である。ラジオ体操を6箇所始めた。社協、自治会の組織の統合を考えていけないといけない。社協が一生懸命やっているが、活動者は自治会の方である。社協と自治会が仲良くやらないといけない。高齢者の安否確認を社協にお願いしたら組織が大きいのでできないと言われた。自治会でやると個人情報の問題になってくる。あいさつ運動もはじめた。回覧板を手渡しでお願いしたが難しかった。今、子ども達に挨拶運動を指導している。
- (委員長) 教育問題は時間をかけて討論していくべきだと思う。
- (真鍋委員) 主任児童委員として参加している。社協のメンバーとして子育てサロンを2箇所、福祉活動推進員と一緒に立ち上げた。またあんしんネット(ゴミだしや植木の手入れ)を始めた。さらに今後安心カードを始めようと思う。この計画の目指す活動実践は進んでいると思う。
- (柳原委員) これを実行していくときに町内の方が取り組んでくれるか心配しているが、この地域福祉計画が各家庭配布なのか、町内自治会長だけへの配布なのかが気になる。民生委員が重要なポストを与えられているので、何かあれば活動していきたい。高齢者が多くなってきているので色々考えるときに、この計画が出来たので民生委員として活用したい。
- (藪委員) 地域福祉計画の実施部隊をはっきりさせてこなかったのが問題である。重点項目にある福祉活動推進員の増員が果たしてできるのか。運営改善についてアンケートを過去にしたと思うが結果を聞いていない。
- (山内委員) センター長から「福祉は文化である」というお話があったが、そのとおりだと思う。安心して暮らせるまちが福祉そのものだと思う。若い人も含めて住民が全員参加して進めるべきである。福祉は支え合う心、ハーモニーの世界だと思う。言葉で言うのは簡単だが、誰が動かすかである。今回の計画の中でも色々な機関が関わっているが、自分達の組織で何ができるか考えていくべきである。都賀の台団地も高齢化が進んでいる。色々な分科会を作っている。安心カードも始まった。しかし実践していくのが難しい。
- (横山委員) この地域福祉計画を知らなかった。1年間社協の活動をしてきて感じたのは、構成メンバーの後継者がなかなか集まらない。65歳に自治会活動を始めて、社協地区部会にも関わることになった。そうした中、行政の力はとても大きいと思う。縦割り行政でうまくいかないところは、横の繋がりができるシステムが出来れば良いと思っている。
- (猪野副委員長) 地区部会連絡会代表で1年間参加してきた。地区部会の責任の重さを痛感している。繋がりは大事であるとお話がたくさん出てきた。今後の実践の中で我々が何を出来るかであるが、計画をPRするのはもちろんであるが、双方向性がないといけないと思う。地域で頑張っている方が何に困っているか聞いてあげるなど、対話の場が大事だと思う。推進協で何が出来るかを考えていけないといけない。
- (大嶋副委員長) この1年を見てきて皆さんが地域で頑張ってきたことがとても励みになった。
- (委員長) 地域福祉でも何でもそうであるが、国に金がない時に地域での支えあい根幹になってくる。反面、自治会が崩壊しようとしている。地域福祉がダメージを一番受ける。これを立て直すのに推進協の役割は重要になってくると思う。本腰を入れて立て直ししていかないといけない。

- (委員長) 運営企画委員会の中で次期推進協への提言をまとめてきた。皆さんの意見を網羅できていると思うが、追加したい意見等があれば発表してもらいたい。
- (大嶋副委員長) 1年間の議論を経てきて解決できない問題もあった。来年度の委員に申し送りという形で提言しておき、次期委員はここから始めればよいと思う。
- (委員長) このような形で次期推進協に提言したいと思う。
- (鈴木委員) 実践部隊が重要だという話が出ているが、民生委員についてこの提言書に記されていないが、どう考えればいいのか。
- (委員長) 組織として、自治会と地区部会に担い手としての焦点を合わせただけである。NPOも重要組織であるが入れていない。もちろん民生委員が入っていないから関係ないとは思っていない。
- (鈴木委員) 各町内自治会長は1年交代が多い。民生委員が1つの組織として入れればその部分がカバーできるものと考えた。
- (有賀委員) 提言の2の働きかけはどのようにしていくのか。また分科会の構想は具体的にあるのか。
- (委員長) 具体的なことは来期のスタートを切った時に討議すべきだと思う。今日配付した私のメモには具体的な提言を入れてあるので見ておいて欲しい。
- (大嶋副委員長) この内容は次期推進協が詰めることであり、今決めることではないと思う。なぜ普及しないか1年間議論してきた。その問題点をそこに明示した。分科会も、この人数での議論では答えが出しにくいので、効率論から考えたものである。
- (田沼委員) 分科会であるが、色々な方の話を聞いたほうがよいというのは分かるが、この書き方だと、上位下達が細かくなっていくように見える。「地域の声を集めるために」とか言葉を入れたほうがよいと感じた。
- (大嶋副委員長) 来年度以降の次期推進協の仕事だと思う。大勢の議論だと効率的ではない。
- (委員長) ご納得いただけただか。
- (池野委員) 要するに、提言書は次回の推進協に引き継ぐためのものだと受け止めればよいと思う。来年度のやり方を現委員で決めてしまうのは越権である。
- (委員長) このまとめを推進協に提言したいと思うがよろしいか。
- 賛成多数—
- (田沼委員) 来期の委員を選ぶことになると思う。年齢が高い方が多いので、若い人が入るような人選を考えて欲しい。
- (事務局) 計画案は体裁を整えて3月中に印刷する。この計画を最終案として承認していただきたい。
- 賛成多数—
- (事務局) 保健福祉センター長と社協区所長が定年退職するのでご挨拶をさせていただく。
両所長挨拶

12時15分をもって第4回若葉区地域福祉推進協議会は散会。

会議録署名人 委員長 武 孝夫

副委員長 大嶋 昭

副委員長 猪野 寛